

経済4団体協力の「職業教育」始まる

京産大「グローバル人材論特殊講義」皮切り

初回の19日、京信・榊田専務理事が教壇に

京都経済4団体共同のパイロット事業、大学における職業教育協力講座がスタートしました。平成24年度に4大学(院)で行う4科目のトップを切って4月19日、京都産業大学法学部の「グローバル人材論特殊講義」(担当＝中谷真憲教授)の授業が始まり、京都経済同友会幹事の京都信用金庫専務理事、榊田隆之氏が「地域の絆づくりに向けた『5つの壺』」と題して約40分間、熱気あふれる講話を行いました〈写真〉。3年生を中心に、法学部以外の学部生も含む履修者17人が受講しました。

授業で榊田氏は、同友会の「大学のまち・京都」を考える特別委員会副委員長の立場から、京都の経済界がなぜ職業教育で協力講座を提唱したのかを簡単に説明した後、本題に入りました。

「グローバル人材論」は、企業人がそれぞれ、仕事と社会とのかかわり、地域および世界とのつながりを話すことにより、学生に仕事の厳しさややりがい、公共性を認識させるのが狙い。この趣旨に添って榊田氏は、地域金融機関の中でも京信が何を重点に経営を行っているかを、実践例をもとに述べました。

とくに「世界的にも地域内でも人間関係が希薄化している今、京信は『地域の絆づくり』が重要な仕事の一つであると考えている」として、業務上はもちろん、業務外でも地域を構成する人々や機関とのつながりをつくり発展させるための各種取り組みを、5項のツボ(要点)に整理し、紹介しました。

また、「地域の絆づくり」を進めるために社内組織づくりや職員研修などにも取り組んでいることにも触れました。



講話後、中谷教授のコーディネートで学生との対話が行われました。積極的な質問が相次いだため、授業時間を超えるほどでした。受講生のほぼ全員が「信用金庫のイメージが大きく変わった」との感想を述べていました。

京産大の授業は前期(4～7月)に15回行われ、そのうちの12回分を経済4団体推薦の講師12名が出講します。龍谷大学でも、政策学部で前期に行われる「グローバルシチズンシップエデュケーションIV」講座(主テーマはCSR、担当＝勝山亨非常勤講師)について2回の授業に協力出講します。また、同志社大学には、後期に行われる大学院の公共政策系の「地域力再生実践講座」(担当＝今川晃教授)に3回の協力出講をします。立命館大学には教学部・国際部・キャリアセンターが共同実施するキャリア教育プログラムについて、座学や就業体験、PBL(課題解決型学習)などで協力します。

.....

京産大授業の見学ができます

京都産業大学「グローバル人材論特殊講義」(毎木曜 16:45～18:15)の授業を見学することができます。ご希望の方(ただし関係者のみ)は京都経済同友会事務局までお知らせ下さい。